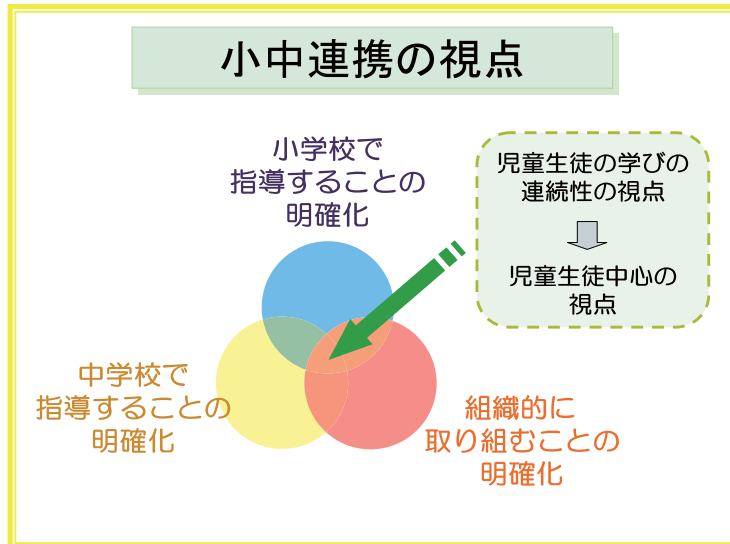


## ポイント② 役割を明確にすること

—学びの連続性—

● 生涯にわたる外国語学習の基礎を培う



外国語活動・外国語科それぞれで付けなければならない力を明確にして指導に当たる必要があります。

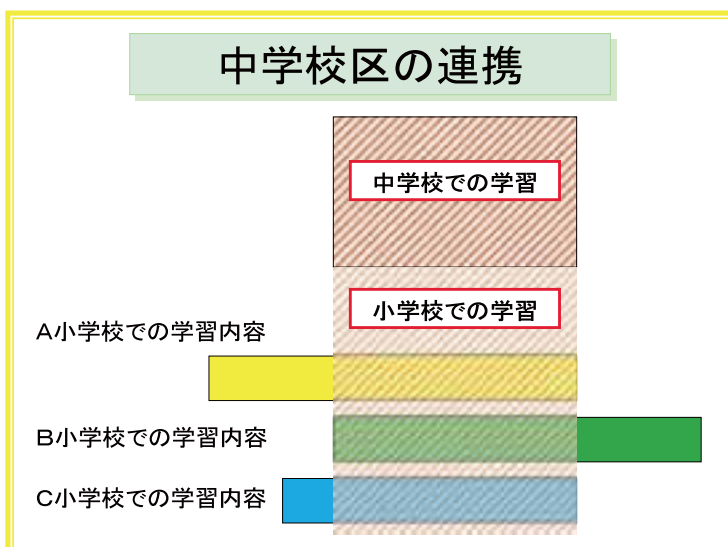
その上で児童生徒にとっては、生涯にわたる外国語学習の基礎を培う時期であることを踏まえ、学びの連続性の視点を何よりも大切にして連携を進めることが重要です。

そのために、中学校区における小中連携の組織を活用し、取り組む内容を明確にして連携を推進していきましょう。

## ポイント③ 中学校区単位で連携すること

—中学校区の連携—

● 小学校終了時の児童像を明確にする



各小学校で共通して行ってきた学習内容の上に、中学校の学習が積み上げられます。

中学校に入学するときに、どのような体験を通してどれくらい理解が深まっているかや、コミュニケーションを図ろうとする態度がどれくらい身に付いていけばよいかを、具体的な児童の姿で共通理解して指導に当たることが重要です。

さらに、そのような児童を育成するための効果的な学習内容について、中学校区における小中連携の組織で協議し、共通の学習内容で進めることも有効です。

【学習内容の例】(英語ノートの内容の他に)

- ・ 地域や学校などの紹介
- ・ 地域の名物 など